※ さいころを投げるとき、起こりやすさを考えてみよう。

・１の目がでる　　・４の目がでる
・２の目がでる　　・５の目がでる
・３の目がでる　　・６の目がでる

※ 実際にさいころを投げるとどうなるか？

	１の目	２の目	３の目	４の目	５の目	６の目
１　班						
２　班						
３　班						
４　班						
５　班						
６　班						
７　班						
８　班						
合　計						
でた割合						

◎ あることがらが起こることが期待される程度を数で表したものを、その事柄のおこる＿＿＿＿という。

さいころを投げるとき、２の目がでる確率は、＿＿である。

さいころを振るときは、どの目がでることも同じ程度に期待できる。このようなとき、どの結果が起こることも＿＿＿＿＿＿＿＿という。このようなときは、計算によって確率を求めることができる。

【例題１】次の確率を求めなさい。
① さいころを１回振って、「３」の目がでる確率。

② さいころを１回振って、偶数の目が出る確率。

③ １枚の１０円硬貨を投げて、表のでる確率。

④ 「１」「２」「３」「４」「５」の５枚のカードから１枚をひくとき、その数が奇数である確率。

[問題１]次の確率を求めなさい。

① さいころを１回振って、４以上の目がでる確率。
② １枚のコインを投げて、「裏」がでる確率。
③ 「１」「２」「３」「４」「５」の５枚のカードから１枚をひくとき、偶数になる確率。
④ １０本のくじの中に当たりくじが３本入っているとき、１本ひいて当たりがでる確率。
⑤ 袋の中に赤玉３球、白玉４球が入っているとき、１球をひいたときに赤玉をひく確率。